

2021年度中3卒業式校長挨拶（2022. 3. 17）

中学校3年生の174人の皆さん、卒業おめでとうございます。また、保護者の皆さまにも、この中学校卒業という節目に際し、心から祝意を表します。

通常は、高校生と合同で行う卒業式ですが、新型コロナウイルスの関係で18日の卒業式では会場に入りきれないことから、中三の参加ができませんでした。ただ、それでは三年間頑張ってきた中三生が可哀想だということで、中三組主任の先生方の発案もあり、本日大講堂を借りて、さらに保護者の皆さまもお招きして、このような形で卒業式を実施することになりました。

私のほうも、高校生と合同の式ではないので、中学生に絞って話ができることは、大変嬉しく思っています。

そこで、堅苦しい式辞ということではなく、ざっくばらんにお話をしたいと思います。具体的には、中学校三年間という卒業の節目に、これから新たな三年間を臨むにあたって、生徒諸君に二つのことを問いたいと思います。

一つ目は、この武蔵中学校での三年間はどうかだったか。そのことを振り返ってほしいということです。

私は武蔵の過ごし方として、三つのタイプがあると思います。皆さんはどのタイプにあてはまるか。考えてみて下さい。

まず一つ目は充実型。中学校三年間、勉強に部活に、とても充実し、のびのびと武蔵生活を送った諸君です。自らの好奇心に火をつけ、自分が好きなこと、楽しいことに熱中し、それを深めた者もいるかもしれません。

論語にこういう言葉があります。「子曰く、之を知る者は之を好むものに如かず。之を好む者は之を楽しむ者に如かず」。つまり、物事をやるには或いは学ぶには、まずは知りたい、次に好きだ、さらに楽しいと思えることが素晴らしいことだということです。

知りたい、好きだ、楽しいの言葉をつなげて、よく「知好楽」と言いますが、自分の知りたい、好き、楽しいを見出し、さらに、それが一生の職業に結び付ければこんなに素晴らしいことはありません。ぜひ、充実した武蔵生活を送ることができた人は、さらにそれぞれの進路希望の実現に向けて頑張ってもらいたいと思います。

次に二つ目。悩み苦しみ型。中学校三年間、いやなことが多くて悩んだり苦しんだりした諸君。勉強ができなかった。人間関係で苦しかった。自分に自信が持てなかった。親子関係で悩んだ。そういう諸君に私は言いたい。大いに悩め。悩め。悩め。その悩んだことが、必ず未来につながる。昔、こんなコマーシャルがはりました。ソ、ソ、ソクラテスがプラトンか、みんな悩んで大きくなった。そのとおり、みんな悩んで大きくなった。

私もはるか50年前、15歳の武蔵時代に何を悩んでいたのか。思い出してみます。まず、自分の容貌に悩んでいました。かっこ悪いなと思っていました。自分の性格にも悩んでいました。どちらかという人の前にしゃしゃり出てしゃべることができない。面白いこともいえない。シャイな性格でした。

勉強も、試験一週間前は本当に苦しかった。今思い出しても、武蔵時代の試験勉強はいやだった。でも、ここでしっかりやらないと、あとでつげが回ってくると思ってやりました。一度だけ手を抜いたら、悲惨な成績でした。そこでやっぱり頑張ろうと反省したことをよく覚えています。自分の弱さを知り、そこに向き合うことから、すべてが始まると私は思います。

悩み苦しんだ二つ目のタイプの諸君に言いたいことは、とにかく悩め。そして悩んだあとに、自分なりに反省する。中学高校の6年間は、そうした試行錯誤の時間に他ならないと思います。大いに悩め、悩んだことがその分人生の肥やしになる。それを言いたいと思います。

そして第三のタイプ。だらだら型。ボーっとしていたタイプの生徒です。中学三年間、なんとなく過ごしてきた。ゲームばかりやって時間をつぶしていた。でも、何かをやったという達成感もない。また苦しんだり悩んだりしたということもない。

ボーっとしていた諸君には、テレビ番組のキャッチコピーではないけれど、「ボーっとしているんじゃないよ」と言いたいと思います。とにかく何かをやってみる。何かに挑戦してみる。自分の安全地帯、コンフォートゾーンといいます。そこに留まっていな。そこを飛び出すことから、人の成長が始まると思います。

失敗を恐れるな。失敗から学べ。何かをやることによって、さっきの自分の「知好楽」がわかっていく。ああこれは自分に向いているな。逆に向いてないな。向いてなければすぐにやめればよい。何かをやらないと何も始まらない。だから、ボーっとしている時間があつたら、何かをやってみるとよい。

確かにたまにはボーっとする時間があってもよい。でも人生ずーっとボーっとしていたら、失われた時間の累積は、何かの目標に向かって常にチャレンジしている人の時間の累積と比べると大きなものになります。古代ギリシャでは「暇」があることが最大の価値でした。そして、その「暇」をどう使うかが問題でした。「暇」はスコレーと呼ばれましたが、これは「学校」の語源になりました。暇を学問に使うことが、人間の価値を高めることにつながるという考え方です。時間は生きています。与えられた時間を生きたものにするか、死んだものにしてしまうかは気持ち一つ。生きた時間にしていくことが大事だと私は思います。

皆さんは、この三つのタイプ、「充実型」「悩み苦しみ型」「だらだら型」。どのタイプでしたか？実際は、この三つのタイプが一人の中にも交じっているのだと思います。

問題は、これからの15歳から18歳までの3年間、どうすごすか。今、ちょうど中学校卒業という節目にいる諸君には、これまでの中学校生活を、今一度立ち止まって振り返ってもらい、大いに悩み、大いにチャレンジしながら、それぞれの知好楽を追求してほしいと思います。人生は自分の思ったようになっていきます。要は自分で自分の人生をどうしたいかを本気になって考えることだと思います。

そしてもう一つ、中三生諸君に問いたいことがあります。それは、諸君は自己的人権感覚を磨いているかということです。

人権感覚とは何か。それは人を大切にするという感覚、大切にできているという感覚です。お互い、価値観も違う。色々と意見が対立することもある。喧嘩をすることもあるだろう。でも、どこか根本のところ、人を大切にしているかということです。その感覚を磨いているかということです。

具体的に言えば、人のいやがることをするな、言うな。人を笑うな。人の痛みを感じる人間になれということです。

というのも、今社会を見回してみると、社会的地位の高い人であっても、あるいは学歴の高い人であっても、こんなこといっちゃうの、あんなことやっちゃうのという例が、あまりにも多すぎるからです。どうして、そんなことを言うてしまうのか、やってしまうのか、その原因はよくわからないけれど、私は、そういう人は、多感な10代の時期に、人の痛みを感じたことがなかったのではないか、人の本当の優しさに触れたことがなかったのではないかと思います。

だからこそ、15歳の君たちには、何をやらせまいのか、何を言わせないのか、これを言っちゃったらおしまいよ、これをやらせたらおしまいよという感性をよく磨いてほしい。

皆さんは、黄金律、ゴールデンルールという言葉を知っているでしょうか。実は、聖書でも仏教でも儒教でも、大切にされている教えは共通しているということです。それは何かというと、「人にしてもらいたいと思うことをしなさい」あるいは「人の嫌がることはするな」ということです。これが黄金律、ゴールデンルールです。

現実の社会では、実は難しい面もあります。わざとではないけれど、どうしても人を傷つけてしまうこともあるでしょう。でも人を傷つけることの痛みを知っていることは、人に傷つけられた痛みを知っていることとともに、大事なことだと思います。

以上、武蔵中学校卒業という節目に際して、二つのことを話しました。一つは今この時点で三年間を振り返ってほしいということ、もう一つは人権感覚を磨けという話です。

4月の新高1の入学式については、会場内の収容人数を制限する関係で、残念ながら実施できませんが、これからの三年間、様々な場所で一回りも二回りも大きく成長していく皆さんに大いに期待しています。

卒業おめでとう。